

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調査

都道府県名	富山県	事業実施主体	富山県・南砺市	地域再生計画名	南砺市森と文化が育む地域づくり計画
計画期間	令和2年度～令和6年度	評価責任者	富山県農林水産部長、富山県土木部長、南砺市ブランド戦略部長、南砺市ふるさと整備部長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	指標2	基準年度	年度	中間実績	基準年度	年度	指標総数		達成数			
	指標1	ペレット製造量の増加	0 t	H29	1,576 t	R4	890 t	1,600 t	R6	×	3	1	中間目標値を686 t 下回っており、最終目標値まで710 t の製造量の増加が必要なことから目標達成が厳しい状況ではあるが、需要拡大に向けた取組みを関係機関と連携して進める。
	指標2	TOGA 森の暮らし塾受講者数	0人	H29	延べ16人	R4	延べ26人	延べ20人	R6	○	3	1	中間目標値で延べ人数を10名上回っており、既に最終目標値を達成している。
	指標3	年間観光客入込数の増加	369万人	H29	375万人	R4	282万人	377万人	R6	×			コロナ禍の影響が大きく、中間目標値を93万人下回っており、最終目標値まで95万人の年間観光客の増加が必要であるが、新型コロナウイルスの移行（2類相当→5類）に伴う観光客の増加に期待したい。
②事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度 (R4)	最終実績 見込み								
特別措置を適用して行う事業	市道事業		2.3km	0.5km	0.7km	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約22%と遅れが伺える。路線内に整備が必要な構造物が多くあり、計画よりも整備が遅れている。計画期間の延長も視野に入れ、引き続き、計画に則した整備を目指していく。							
	林道事業		2.5km	2.1km	2.5km	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約84%と順調に整備が進んでいる。引き続き計画に則して整備を進める。							
その他の事業													
計画外で独自に実施した事業	南砺市交流観光まちづくりプラン	「交流」を軸とした観光まちづくりを推進する。	令和4年度までは南砺市交流観光まちづくりプランに基づき、観光客入込数の増加や観光の質を高めることを重視した取り組みを行ってきた。令和5年度からは、第2次南砺市交流観光まちづくりプランに引継ぎ、観光振興の結果が地域に豊かさをもたらす、観光経営を通じた地域づくりにつながるよう、7つのリーディングプロジェクトに取り組んでいる。										
	南砺市エコビレッジ構想	様々な小さな循環が相互に運動し、支え合いながら自立するコミュニティの形成を目指す。	本構想は、地域資源の循環による地域の自立を新たな視点とする総合的な地域づくりのあり方を示すもので、市内各地域へと地域特性に応じたエコビレッジの展開を図るため、各種施策に取り組んでいる。桜ヶ池周辺エリアにおいてゾーニングを行い、ゾーン別に様々なエコビレッジモデル事業を実施している。										
	南砺市森づくりプラン	森林資源の有効活用を図る。	森林が持つ多面的機能が十分発揮されるよう、間伐や過密人工林の整備、路網整備等の森林整備事業の支援を行った。また、市産材使用住宅への建設助成や、ペレットストーブ導入助成を行った。										
	南砺市交流観光まちづくりプラン 後期パワーオン事業	地域資源の磨き上げ、インバウンド対応や広域連携、二次交通の整備等を通じておもてなし力を強化する。	北陸・飛騨・信州3つ星街道協議会や富山県西部地区観光協議会と連携したプロモーションや商品造成を行っている。また、レンタサイクル事業を実施し、市内各所にレンタルステーションを設置、市内を周遊できる環境を整備した。そのほか、五箇山合掌の里のリノベーション（断熱改修・水回りの更新）を実施し、1年中快適に過ごせる環境を整備した。										
	地方創生推進交付金（エコビレッジプロジェクト）	「TOGA 森の暮らし塾」開設による林業者の育成。	令和2年度から事業を開始し、これまで3期26人が通年過程を卒業し、林業事業所への就職や市内定住につながっている。										
③評価方法	富山県と南砺市及び第三者からなる評価会議により達成状況の評価、改善事項の検討等を行った。												
④中間評価の公表方法	富山県のホームページに掲載												
⑤計画全体の総合評価	<p>本地域再生計画では、道整備交付金を活用した市道整備と林道整備を一体的に行うことで、路網ネットワークを活用した森林資源の流通を効率化し、森林資源の活用循環を図るとともに、さらに、市内観光地・観光施設等の周遊性を強化し、観光客の入込増加を図ることを目的としている。</p> <p>なお、指標1のペレット製造量の増加については、現時点で目標達成の見込みが厳しい状況にあるが、少しでもペレットストーブ等の普及を図り、ペレット製造量の増加につなげるよう、引き続き地域再生計画の事業展開を図っていく。</p>												
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況					有りの場合その具体的内容							
	地域再生計画の見直し（有・ <input checked="" type="radio"/> 無） 令和6年度予算要望額への反映（有・ <input checked="" type="radio"/> 無） 有りの場合の増減額 千円												
⑦今後の方針等に対する対応	本地域再生計画においては、整備量が計画を下回っているものの、今後の集中整備等により、目標の達成に向け事業を推進していきたい。												